

約束を果たし続けるために

大人のアトリエ参加者 波頭修さんの作品



2020 年を迎えました。昨年も陰陽入り混じって出来事がありました。大きな希望としては、国会に二人のしょうがいしゃが議員として誕生したことです。やった！という思いと同時に、やっとここまで来たかという気持ちにもなります。

青い芝の会の問題提起から始まるしょうがいしゃ自身による何十年もの厳しい闘いから、しょうがいしゃが地域で生きることが当たり前と、ようやくいわれ出した今、その一方で、それに真っ向から対立するやまゆり園の事件がおき、裁判が始まりました。この二つの出来事を見るに、この二つが同時期にあり、今、目の前にあることを考えると、全く別のことではなく、地続きのこととして捉えなくてはいけないと思うのです。この狭間で日々、私たちは暮らし生きていることを忘れてはいけないのではないのでしょうか。

人は誰でも様々なエネルギーを秘めています。それは良きことも悪きことも清濁併せ持つて可能性を秘めているのだと思います。そのエネルギーが、どのように発揮されるかは、その人一人の努力だけで決まるものではありません。その人を取り巻く沢山の要因がその人のエネルギーに方向性を与え、形にしていくのだと思います。

私たち福祉事業を担う者は、そのエネルギーを、しょうがいしゃが地域で生き生きと社会参加して生きるために発揮することを約束しています。一朝一夕にいかないことも多いですが、だからこそ、諦めることなく、その約束を果たし続けることの出来る、広い視野と力を持ちたいものです。そしてお互いに支え合うことで、方向性を見失わないようにしたいものです。(理事長 遠藤良子)

「問題行動」と「行動問題」

TVドラマの話をさせていただきます。韓国の医療ドラマで「驚異的な記憶力と診断力を持つ医師志望の青年が、しょうがい特性を理由に国家試験合格を保留にされてしまうが、インターン先の病院で奮闘し、合格を勝ち取る」といった内容です。2013年の放送当時はそれなりに話題にもなり、アメリカと日本でもリメイク版が制作されたので、ご存知の方もおられるかもしれません。ただ自分としては、ありがちな「感動何々」だと嫌だな、と思っていました。が、食わず嫌いだったようで、思った以上に好印象でした。

主人公は最終話で国家試験合格を勝ち取るのですが、その時のスピーチが心に響きました。「私は『人と違うところがある』ので人一倍頑張ったけれど、うまくいかなかった」「合格を勝ち取れたのは、先輩方が私と向き合い、愛してくれたからだ」と主人公は言います。言葉にするとあまりに平板で、福祉の世界では当たり前すぎるのですが、自分は逆に、一般社会に根深く残る「自己責任論」のことを強く意識せざるを得ませんでした。

少し話は変わりますが、近年は「問題行動」という言葉の代わりに「行動問題」という言い方が増え

てきていることをご存じでしょうか。何だか言葉遊びや屁理屈のように聞こえますが、本質的なところが真逆の考え方に基づいています。

「問題行動」という言い方には、当事者ご本人に「問題がある」といった大変失礼で理不尽なニュアンスが含まれます。典型的な「自己責任論」です。しかし「行動問題」という言い換えには「問題は、ご本人を取り巻く様々な環境そのものにあり、ご本人はその一要素に過ぎない。問題改善の為には、人的環境を始め、ご本人以外の様々な環境にアプローチすることが重要である」という考え方にに基づきます。自分もこの「環境重視」の立場に賛同するものです。日本だけではないにしても、様々な生きづらさを抱える方々に対して、人ごとのように「自己責任」を持ち出す風潮は、まだまだ根強いように思います。つい先日も、当事者ご本人だけが変われば良い、という意見をSNSで目にし大変残念に思いました。（意見の主は教育関係者でした。）

しかしそれでも、SNS上で見る限り、こうした様々な生きづらさを抱える方々の問題に対し、自己責任論からの脱却を図ろうとする動きは徐々に増えていることを実感します。令和も2年目になりましたし、こういった「脱・自己責任論」の動きがさらに大きくなっていくことを願っています。（相澤）

誰もが集えるみんなの居場所（10：30～18：30日祝休み）
日中一時支援事業（15：30～土日祝休み）

たまりば宙（そら）Tel/Fax 042-843-0443



ハロウィーン

昨年10月末、年に一度のお楽しみハロウィーン！魔女、スパイダーマン、鬼太郎など、思い思いの仮装を楽しみました。

今年は、くじらっこ、一歩ハウスやミラハウスのグループホームの皆さんも仮装して訪れ、とても賑やかで楽しいひとときでした。毎年、ご協力いただくご近所の方にも感謝です。（石井）

ひとり分の簡単ご飯作り

昨年11月30日、簡単に短時間で手作りできる、ひとり分のお料理教室を開催しました。チキンロール、茶碗蒸し、栗蒸し羊羹を作り、その他にもレシピの紹介をしました。早々に定員になり、お断りした方ごめんなさい。皆さんの関心が高いことを知り、同じメニューで3月28日（土）に、もう一度開催予定です！（石井）

※詳しくは最終ページの囲み記事を見てね！



生活介護事業所

くじら工房

Tel/Fax 042-843-3450

くじら工房の商品

福祉会館の入口にある「喫茶わかば」さんに、くじら工房の商品を置かせていただくことになりました！刺繍の布巾、ブックカバー、がま口、ポストカードなどなど。これまでも、「たまりば宙」に置いていましたが、その他はイベント時にしか販売する機会がありませんでした。この度、喫茶わかばさんという、かいゆうの手から離れた場所で、地域みなさんに見てもらえるというのは嬉しいものです。早速、布巾とブックカバーが完売して追加納品するなど、活動も活気づいています。

制作秘話をご紹介します♪

写真のブックカバーは、2019年の秋ごろから、ボランティアさんの手を借りて商品となったものです。ある日、美術講師を招いたアトリエの時間に、大きな布をみんなで染めました。それを何か作品にできないかとスタッフがブックカバーにしてみましたけれど、



上手くできません。そのとき、ハンドマッサージのボランティアとして来てくださっていた方に相談したところ、ブックカバー作りを引き受けてくださいました！！そして、お友だちにも声をかけ、毎週工房にいらして利用メンバーと机を囲んでチクチクと作業をしてくださっています。

工房メンバー、アトリエの先生、スタッフ、地域の方。みんなで力をあわせてできた商品です。こちらにも「たまりば宙」「喫茶わかば」にて500円で販売していますので、どうぞご覧になってくださいね。（家村）

放課後等デイサービス

くじらっこ

Tel/Fax 042-505-4661

みんな違ってみんないい

このチームで働くようになり、もう少しで1年がたとうとしています。初めは正直不安なことが多かったですが、今ではこのチームで働くことが出来、本当に良かったと感じています。

どんな時も自分ではなく相手を優先してくれる市川さん。どんな時でも子ども達と全力で遊び、全力でぶつかってくれる大関さん。小さな変化に気付き、いつも細やかな配慮をしてくれる高さん。いつも優しい笑顔で子ども達、そして私たちスタッフを受け入れてくれる橋本さん。

こんなに素敵なスタッフ達と一緒に働くことができ、本当に恵まれていると感じています。私が管理者・責任者を務めさせていただいていますが、まだまだ至らないことが多く未熟者です。不安なことも多く、責任に押しつぶされそうになることもあります。



このチームなら大丈夫！と安心するとともに、しっかりしなくてはと身の引き締まる思いです。

くじらっこが掲げている「みんな違ってみんないい」、この言葉を大切に、お互い支え合い、補い合いながら、2020年も子ども達・保護者様が安心して通い、預けられる場所であるよう努力していきたいと思います！（長田麻美）

はじめの一步ハウス

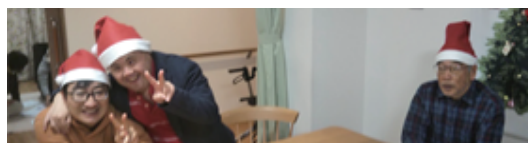
新しい地で 1 年経ちました

一步ハウスは富士見台に越してから 1 年が経ちました。「新しい地での生活は大丈夫だろうか、みんな不安定にならないだろうか」なんて、引っ越し当初、岩谷はドキドキしていました。

しかしそんな心配は何のその、一步のみんなは新しい 1 年目を各々で楽しんでいました。みんな本当にすごい！本当に頼もしいです。

せっかくなので、最近のイベントのひとつまを皆様にも。ね？ステキでしょう？

2 年目も皆で楽しくすごそうね！！（岩谷）



メゾン・ド・歩人

毎年恒例の新年会

泉の 2 寮では毎年新年会を行っております。今年は 1 月 18 日。なんと雪!!新年早々ついでますね（笑）雪の中、テント?と思いました。が丹羽さんの機転でビニールシートを屋根にし、いつものとおり外で伸び伸びと餅をつきました!!「よいしょー!!」の掛け声でみな次々に餅をついていました。

天候悪く、こじんまりとしましたが、昨年餅をつけなかった歩人の N さんも餅つきが出来て、今年は全員出来ました。そのあとの恒例のカラオケも楽しめた様です。（小野）



とれいる

7 年目の軌跡

とれいるの名前の由来、～跡、軌跡、（英語で、このような意味で使われます）。6 人の入居者が、しっかりと自分の足、意志で人生を生きていく、自分たちが歩んできた道筋をしっかりと形に残していく。というような思いが込められています。

とれいるがオープンしてから早いもので 7 年目を迎えることが出来ました。1 年目の年の軌跡から、7

年目になる軌跡へと、6 人の入居者の方が築き上げた道筋であり、歩んできた跡はしっかりと残っています。そして、7 年目を迎える今、入居者一人ひとりがこれからの目標や指針が形になって、見えてきたのではないかと思います。

人は 1 人では生きられない、6 人それぞれの役割、家族の役割、そして私たちスタッフの役割をしっかりとわかりやすくすることがとても大事で、それを、みんなで共有していくことを大切にして、みんなで、強く、消えない軌跡を残していきましょう。そのために、ここに居るのだから…。（冨永）

ミラハウス

ミラのカラー鮮明に

昨年2月にスタートしたミラハウスですが、早いもので1年が経ちました。

入居者の皆さんにとっては初めて親御さんの元を離れての慣れない生活が始まり、我々スタッフも手探りの中、どうしたら新しい生活が軌道に乗るか？だけを考え続ける日々でした。本当に「あっという間にだったなあ」以外の感想が思いつかない1年目でした。

そんな中、入居者の皆さんが我々の事前の想像よりずいぶんと早く新しい生活に慣れてくれたのは嬉しい誤算で、そして何よりミラハウスのこと、ミラハウスでの仲間のことをすぐに好きになってくれたことには大いに助けられました。たった1年しか経っていないとは思えないような入居者の皆さんのチームワークには何度も驚かされたものです。

天気の良い日はみんなで歩いて通所する等、ミラハ



ウスならではの特色が少しずつではありますが出来つつあります。夏には横浜にホテルのランチにいきました。花火大会や誕生会、クリスマス会などの季節のイベントも楽しく出来ました。今年の3月には初の旅行を計画しています。

みんなで共有できる思い出を沢山作っていったミラハウスのカラーが鮮明になっていくような2年目にしたいと思います。(中村)

来歩ハウス

充実した日々

来歩ハウスに来て5年が過ぎました。

あっという間の5年で、入居者さんやスタッフ

さんにいろんなことを教えてもらいながら、充実し



た日々を過ごしています。

入居者さんも、年を重ねるごとに少しずつ変化がありますが、変化に気づいて柔軟に対応できるよ



う、自分自身も健康でいるように体調管理に気を付けます(食べ過ぎに気を付けます笑)。

今年もサンタさんがやってきたー



今年もサンタさんがプレゼントを持って来てくれました。以下サンタさんより「プレゼントがタクサンター、私のお腹には夢と希望がつまっているぞー」

入居者さんも大喜びでした。サンタさんありがとうございました！(川鍋)



すうえる この人達が好き

昨年11月より、すうえる所属で働かせて頂いております。2年前まで立川のB型作業所で7年、はるか昔は某入所施設で8年ほど働いていました。その間、一般企業でも働いてきましたが、知的障害者福祉に戻って来るのは、なによりも“この人達が好きだから”。

普通に生きていて、なかなか人様の人生に関われ

ることは、そうそうありません。建前や偏見がなく、自分に正直。そのかわり、こだわりや欲求の抑止が効かず少し生きにくい。。。そんな人たちの人生の一場面にでも関われる。支援者と利用者というより、人間と人間でありたい。。。そんな思いで日々を重ねさせて頂いています。

経験は経験、かいゆうの諸先輩方のアドバイスを受けながら、日々、自分も、かいゆうの新人として成長させて頂いております。

へビメタと怪談と車が好きなおじさんですが、何卒、よろしくお願い致します。(坂口)

この人に聞く

小野 比呂子さん（歩人 勤務）



かいゆうに入ったきっかけ

—かいゆうに入って何年ですか？

かいゆうに入って10年経ちます。最初はバイトでした。その前はオペレーターの仕事をしていて、毎日同じことの繰り返し嫌になって辞めました。長く続けられる仕事がしたいと思っていたところ、フリーペーパーで、かいゆうの求人を見ました。面接は、くじらハウスで、面接官のTさんは、なんかラフな感じだし、台所では料理（くじら工房の給食）作っているし（ここは一体どういうところなんだと（笑））。

入っていきなりNくんという赤ちゃんみたいな子に、ご飯たべさせて、と言われて戸惑いました。研修を終えた後、責任者のNさんと支援の振り返りをしたんです。その時、言われたことを今でも大事にしています。「しょうがいのある子たちの瞬間、瞬間に携わっていることをどう思う？」と。私、考えた事なくて「わかりません」って答えました。そしたら「正直でいいね」って言われて。その時、大切な時間だから、ただ一緒にいればいいのではないと思ったんです。この人たちは、生きててよかったと思える時間が短い。だから人生の中の熱い時間をつくってあげたいといつも考えています。グループホームにいと、ダラダラと時間が過ぎてしまいます。だから意識できないことを、いかに意識してもらうか考えています。

バイトから正職員になったのも、Nさんから勧められたことがきっかけでした。当時（7年前）は、歩人のスタッフが定着しなくて。ちょうど青柳に新たにグループホームがオープンして、一緒に歩人で働いていたYさんはそちらに異動しちゃうし。それで思い立って、今に至ります。

やるからには本気で

—去年、フラメンコの発表会を見ましたが素敵でした。

かいゆうに入る前からフラメンコはやっていて、ずっと仕事との2本立てでやってきました。子どももいないし、これからも続けていきたいと思っています。

最近、物忘れがひどくて（笑）。フラメンコの振りを覚えるのが大変で。本来は、フラメンコって即興なんだけど、そんなことできないから先生に振りつけてもらうんですけど（振り付けのメモを見せてもらいました）。

苦手な所を見つけて自主練習。どうしてこうなるのか探求します。まるで部活みたい。できないからハマるんだと思います。上手く見せたい、褒められたいって考えると上手いかないの。そうではなく、自己表現の世界だと思っています。

日本って、世界で2番目にフラメンコ人口が多いんです。日本人のツボにはまるのかな。でもスペインの伝統芸能を外国人がやっているわけで。少しでも近づきくて、フ

ラメンコのことを調べたりして、知れば知るほど出来るようになりたい、もっと楽しくなりたいと思います。これは仕事では得られないものです。

衣装はいつも母が作ってくれます。「戦場へいざ行かん！」という心境で踊ります。別世界へ行く感じ。やるからには本気でやりたい。お稽古事だけど。

隠されている存在

—最近はいんクルージョンという言葉が浸透してきたように思いますが？

経験から言うと、知的しょうがいの人は、中学までは特別支援学級があったりして身近な存在だった。でも高校から姿を見なくなった。どこに行っちゃったんだろう？と思っていました。でも、かいゆうに入って気づきました。中学卒業後は特別支援学校に進学し、こういう風に大人になって生きていると。

あるお母さんが話してくれたことですが、子どもが5年生まで普通学級に通っていたけど辛かった。授業についていけなかったり、いじめられたり。でも特別支援学校に移って救われたと。

—しょうがいの有無で分けることは差別につながるからよくないとか、みんな一緒がいいとか、そんな単純なことではないんですね。

そうですね。でも一方では、しょうがいしゃのことを、知らないから恐怖を感じたり、いじめたりしてしまうという面もあると思います。それは教育によるところが大きいと感じます。ドラマの登場人物の設定にしても、しょうがいしゃって絶対いないでしょ。存在が隠されているんです。最近、NHKの番組で目にするようになったけど、24時間テレビはお涙ちょうだいだし。やまゆり園のような事件の報道のされ方にも問題を感じます。しょうがいの存在が社会に浸透していない。これは日本だけではないんです。一定の割合で生まれているのに。

—かいゆうの法人理念は「地域で自分らしく生きる」ですね。

かいゆうは、しょうがいのある人が地域とともに暮らすことを目指しています。くじらハウスは住宅地の中にあって、まさにその理念を体現しているというか。自閉症っていうけれど、あれは間違ってますね。全然閉ざされていませんから（笑）。

◆インタビューを終えて◆

フラメンコ大好きなんだなあということが、言葉の端々からすごく伝わってきました。そして、しょうがいのある方と接する時、小野さんが常に大切にしていることを伺い、素敵だなと思うとともに、身の引き締まる思いがしました。（インタビュー 中西）



発達障害フォビアー続編ー

前回の「かいゆうだより」で、こう書いた。

「1990年代後半から2000年代前半ぐらいまでは、神経学的マイノリティであると自分自身の特性を発見した自閉圏当事者たちが世界中でカミングアウトし、誇りを持って生きる姿が可視化された時期だった。」

それが、その後の10年ぐらいで、少なくとも日本においては変容した。

変容した理由は、おそらく2005年4月施行の発達障害支援法によるのだろう。その法律により、福祉領域で発達障害が定義され、支援の制度化が進んだ。2011年に、年金等の申請用の診断書様式と認定基準において発達障害が位置付けられたことも、更に人々の意識を変えただろう。

現在の障害福祉は「ポスト制度化の時代」だそうだが、発達障害についても非常に短期間で同じことが起きていたわけだ。時代に逆行はできないので、日本の発達障害を取り巻く風景は法整備によって確実に影響を受けたことを認識しつつ、これからも風景の移り変わりを眺めていきたいと思う。(白川)

くにたち秋の市民まつりに出店しました!

昨秋11月4日、元号が「令和」になって初めての市民まつりに参加しました。今回は、わたあめと、くじら工房の作品を販売しました。

事前準備をしっかりと行っていたつもりでしたが、当日になるとバタバタした状態でした。が、隣の事務所の方がテントの組み立てを手伝ってくれたり、スタッフのご家族の方も一緒に手伝ってくれ、皆で助け合いながら準備をすることが出来ました。

しょうがいの有無に関係なく、子どもから大人まで協力し合って仕事をしている様子は、まさに、かいゆうの理念「地域で生きる」そのものの光景だと思いました。

おかげさまで、わたあめは完売。くじら工房の作品も多くの方に購入をして頂きました。今回の市民まつりで、改めて人と人が助け合っていく心は大切であると感じました。(一之木)



* 今日の一品

餅ピザ

材料 (適宜)

スライス餅・チーズ
玉ねぎ・ピーマン・ソーセージ
トマトケチャップ

作り方

- ① 玉ねぎ、ピーマンは薄切り、ソーセージは半月薄切りにする。
- ② ホットプレートに餅を並べ、具とチーズをのせ、蓋をする。

ひとくちメモ

免疫力とは体に侵入してきた細菌やウイルスをやっつける力のことです。

新型コロナウイルスやインフルエンザウイルスを撃退するのも最終的には薬ではなく、その人の免疫力です。免疫力UPには、バランスのとれた食事に加え、みそ、ヨーグルト、納豆などの発酵食品やビタミンA、C、Eを中心とした抗酸化食品を積極的に摂り入れた食事です。

この献立の中にも、みそやチーズ、ニンジン、豆苗、ピーマンなどの免疫力を高める食品が沢山使われています。風邪やインフルエンザにかかったら体を温める食材、消化のよい食材、粘膜を強くする食材とともに、十分な水分摂取も心がけましょう。

(佐藤公子)

1月の献立

いも餅 (醤油・あんこ・きな粉)
豆苗ともやしの磯辺和え
餅ピザ・豚汁

日中一時支援 宙(そら)の お楽しみタイム (第2水曜)

月に1度、みんなで作ってみんなで一緒に食べています!



この時期、免疫力を高める食生活を!

手話との出会い

2018年4月から手話教室に通っています。何か勉強したいと思っていた時に、社会福祉協議会主催の教室のチラシを見たことがきっかけでした。多少なりとも勉強して最も感じることは、手話が非常に低い地位に置かれてきたことです。ろうの方たちが当たり前に使っていると思っていましたが、手話がコミュニケーション手段として評価されるようになったのは最近です。信じられないことに、今でもろう学校には手話のできない教職員が配置され、授業科目としての手話もありません。

現在、こうした状況に対し、関係者の方がどのような行動を起こしたか、そしてそれに対する文部科学省や都道府県教育庁の対応を調べています。手話のできる教員が配置できない、手話の授業が無い妥

当な理由があれば別ですが、無ければこの2つの実現をこれからのライフワークにしていこうと考えています。

まずは国会議員に要望しますが、直ぐに実現することは難しいでしょう。数年間は文部科学省前でプラカードを掲げて歩こうと考えています。先日も芸小ホールで「絹子ものがたり」というしょうがいしゃの人生を扱う劇がありました。私は劇を見ていませんが、折々に聞いてきた彼女や彼女の兄の活動は、はじめは岩盤に爪を立てるように難しいものだったと思います。私も「あきらめない、たゆまず続ける」ことで、いつの日にか、手話が市民権を勝ち取ることを夢見ています。(評議員 加藤 登志雄)

たまりば宙で開催するイベント

国立市富士見台1丁目17番-17-1A(谷保駅徒歩1分) ☎042-843-0443

ひとり分の簡単ご飯

講師 佐藤公子(かいゆう栄養士)

日時 3/28(土) 14時～

参加費 500円

持ち物 エプロン・三角巾

手拭き

要申込 042-843-0443

■メニュー
チキンロール
茶わん蒸し
栗蒸し羊羹 他

again

自分のために食事を作るのは億劫。でも食は大事にしたい！冷凍品や缶詰、総菜などを上手に活用。調理器具や調味料をシンプルに。賢く手抜きして、ひとり分のごはんを一緒に作りましょう！



ご寄付下さった皆様

ありがとうございました！

F.N. H.N. I.S. K.F.

K.S. N.T. S.A.

浅見美枝子 伊藤邦雄 岩下摩樹

内田敏弘 小林朋仁 田中妙子

中川瑞代 仁科渡 兵頭富雄

NPOくじら雲「法人清算金」

タクトホーム(株) 国立のぞみ教会

(敬称略)



facebook ホームページ

★職員の入退職★

入職

坂口 一郎さん

2019.11.1付

「くにたち まちのオープンキャンパス2020」参加企画

申込 不要・無料

くじら工房ギャラリー展の教室

日時：4月25日～5月1日(26日はお休み)

10時30～18時30(最終日15時)

内容：くじら工房(障がい者生活介護事業所)を利用しているみなさんの作品展示です。

一部販売もあります。

親子で絵本とお話を楽しもう！の教室

日時：4月29日(水祝)

14:00～14:30 小さい子向け

14:45～15:20 大きい子向け

内容：絵本、紙芝居、手遊び、ストーリーテリング(童話や昔話などの物語を語ること)の世界を楽しみませんか？

編集後記 ◆すでに、その姿があらわとなった赤い三角屋根の旧国立駅舎が、この4月にオープンする。そのことを祝って市が、まち開きイベントを企画し、参加団体を募っていたのが昨年末。かいゆうも2つの企画を引っさげて参加する。内容は、上の囲み記事を見ていただくとして。この企画、くにたちの街をまるごと大きなキャンパスに見立て、市内各地に点在する交流拠点を4月4日～5月6日までの期間限定で一斉に開くというもの。各拠点で開くイベントは、「〇〇教室」と銘打って、ガイドマップにまとめられ、市内全家庭に配られる予定。(な)